

News Release

報道関係各位

2016年6月13日

【主催／白馬会場】一般社団法人 日本EVクラブ
【主催／乗鞍・高山会場】ジャパンEVラリーin乗鞍&EV・PHEV試乗会in高山実行委員会

雲の上のEVドライブ。
『乗鞍スカイライン』を走ろう！
The Rally to the Clouds
「ジャパンEVラリー 2016 白馬～乗鞍～高山」
2016年7月16(土)～18日(月・祝) 開催

全国各地からEV&PHEV(※1)が集まる恒例の夏山イベント、「ジャパンEVラリー」が今年も開催されます。3年目を迎える今回は、これまでの舞台だった白馬からさらに足を伸ばし、白馬～乗鞍～高山までの新しいルートを設定。乗鞍スカイランをEVで駆け上がる「スペシャルステージ」(PR車両のみ)を設けるなど、大きくスケールアップした「ジャパンEVラリー2016 白馬～乗鞍～高山」を実施することで、自然と自動車との共生を考えながら、EV・PHEVのさらなる普及をアピールします。

今日、世界中で地球温暖化とエネルギー問題がますます深刻化し、有効な解決方法を探るなか、電気自動車の存在はさらに注目を集めています。世界的なEV時代の到来を受けて(※2)、EVの普及を目指す一般社団法人日本EVクラブ(※3)ほか、「ジャパンEVラリー2016 白馬～乗鞍～高山」を、2016年7月16(土)～18日(月・祝)の3日間にわたり、長野県と岐阜県にまたがって開催することにいたしました。ゴールとなる高山市の会場では「最新EV・PHEVモーターショーin高山」も開催し、世界のEV・PHEVに乗ることができる試乗会や識者によるフォーラムを行います。

充実したラリーイベントを多くの人に楽しんでもらうのはもちろん、EV・PHEVの性能の高さとその魅力を広く知ってもらい、これらの電動車両に触れることによって、いっそうの普及を促すものと考えます。

<ジャパンEVラリー2016 白馬～乗鞍～高山>

■開催趣旨

「ジャパンEVラリー」は、時間や速度を競う競技ラリーではなく、“集合・離散”というラリー(Rally)本来の意味に還ったものです。EVとPHEVのオーナーが全国各地から集結し、ラリーを行うことで交流を

深め、環境にやさしいEV・PHEVの魅力をアピールし、その普及が促進されて、結果的に自動車におけるCO2が削減されることを願うものです。

今回、特筆すべきは、乗鞍スカイライン(※4)を走行する「スペシャルステージ」を設けたことです。

日本でもっとも標高の高い自動車道路の乗鞍スカイラインは、一般車両の乗り入れが制限されていますが、地元のご理解とご協力を得て、当ラリーの主旨に賛同した国内外のメーカー等から提供されたPR車両のみが特別に走行できることになりました(スペシャルステージ参加は、乗鞍の自然をSNS等で広報できるレポーターのみ<事前申込>)。EVがここを走ることにより、その性能の高さを大いにアピールでき、かつ乗鞍の自然を通じて、環境とEVとの共生について考えるきっかけになるのではないかと考えます。

なお、今回は「白馬パレードクラス」「エキスパートクラス」「ファミリークラス」の3つの参加クラスを設定。これにより、参加者は日程とコースを自由に選べるようになりました。

■ イベント詳細内容

①EVラリー

自宅など任意の場所をスタート。各クラスのゴール(白馬・高山)を目指して走ります。EVラリーへの参加を通じて、一人ひとりが環境・エネルギー問題をアピールします。ゴール時は車両ごとに記念写真を撮ります。

②EV・PHEVオーナーズワークショップ(白馬)

「Hakuba47スキー場」に設置するオーナーズテントにて、電気自動車の使い方などさまざまなテーマのワークショップを実施します。テーマ(仮)は、「電気自動車生活を自慢しよう!」「急速充電、もっと、こうして!」ほか。

③ウェルカムパーティー(白馬)

「Hakuba47スキー場」特設ステージではBBQを楽しみながら、EVアンバサダーとして参加者全員を表彰するナイトパーティーです。ジャーナリストのトークショーや地元子どもたちによる太鼓演奏なども。

④EV・PHEVパレード(白馬)

参加EV・PHEVの有志により、白馬村を巡る恒例のパレードです。

⑤EVラリーミッション

エキスパートクラス、ファミリークラスともに、走行ルートの途中にミッションを用意します。ミッションをクリアした方に賞品を贈呈します。

⑥スペシャルステージ(乗鞍)

国内外のメーカー等から提供されたPR車が標高2,702mの乗鞍スカイランを駆け抜けます。ドライバーはモータージャーナリストとスタッフ。さらにホームページやSNSなどを使って情報発信を行うレポーター(※5)は、これらの車両に同乗します。また、畳平では地元ガイドの案内により、乗鞍の自然を観察するガイドツアーを実施、記念写真の撮影もあります。

⑦奥飛驒ミーティング(乗鞍)

殿下平総合交流ターミナル(五色ヶ原入山口)にて、ファミリークラスとエキスパートクラスが合流。参加者同士の交流をはかりつつ、「EVラリーミッション」の表彰を行います。また、スペシャルステージ参加者に向けて、乗鞍スカイラン走行のポイントや自然について学ぶ「事前講習会」も実施します。

※1、EV=Electric Vehicle(電気自動車)。

PHEV=Plug-in Hybrid Vehicle(プラグインハイブリッド自動車)、充電できるハイブリッド車。

※2、現在のEV国内保有台数(2015年3月末)／EV53,373台、前年比136.3%(〈一社〉自検調べ)。

国内の急速充電器6,469基(CHAdemo協議会調べ2016年4月現在)。

※3、一般社団法人 日本EVクラブは、1994年10月に自動車評論家の館内端を代表として設立。EVを中心にエコカーの普及と、未来のモータリゼーションの創造、地球温暖化防止と石油エネルギーの節約を私たち自身の問題として考え、主体的に活動中。

※4、奥飛驒温泉郷・平湯峠から標高2,702mの乗鞍岳・畳平まで全長14.4kmの日本一標高が高い山岳道路。環境保全のために2003年以降、一般車両の乗り入れを規制している(マイカー規制)。

※5、事前にレポーターを募集。

■クラス別スケジュール

【エキスパートクラス】

- ・日時／ 2016年7月16(土)～18日(月・祝)
- ・集合場所／長野県白馬村「Hakuba47スキー場」
- ・内容／16日白馬ゴール&ウェルカムパーティー。
17日白馬パレード、その後奥飛驒温泉郷へ。
18日スペシャルステージ後、高山ゴールまでの参加。

【白馬パレードクラス】

- ・日時／ 2016年7月16(土)～17日(日)
- ・集合場所／長野県白馬村「Hakuba47スキー場」
- ・内容／16日白馬ゴール&ウェルカムパーティー。
17日早朝の白馬パレードまで参加。

【ファミリークラス】

- ・日時／ 2016年7月17(日)～18日(月・祝)
- ・集合場所／奥飛驒温泉郷「殿下平総合交流ターミナル(五色ヶ原入山口)」
- ・内容／17日必ず岐阜県内の道の駅に寄って、奥飛驒温泉郷に集合。
18日スペシャルステージ後、高山ゴールまでの参加。

■募集要項

- ・参加資格／EV・PHEVに乗って参加のこと。レンタカーも可。
- ・エントリー料／全クラス共通 1台につき6,000円(何人乗っても料金は同一。記念Tシャツ(1枚)ほかのお土産付き)

- ・その他参加費用(希望者)／白馬ウェルカムパーティー参加料(大人3,000円、小学生以下1,000円)、高山ゴールランチ(1個1,000円／お弁当・飲み物付)
- ・参加申込／事前申込が必要(ホームページより申込)

同時開催

<最新EV・PHEVモーターショーin高山>

■開催趣旨

ジャパンEVラリーのゴールとなる飛騨の会場にて、日本、ヨーロッパの最新EV・PHEV・FCVの試乗会とワークショップを行います。見て乗って、ワークショップに参加することで、次世代自動車への理解をよりいっそう深めることに役立ちます。

■スケジュール

- ・予定日時／ 2016年7月18日(月・祝)
- ・場所／飛騨・世界生活文化センター(岐阜県高山市)
- ・参加資格／参加自由
- ・参加費用／無料

■イベント内容

①試乗会

トヨタ、日産、ホンダなどの国内メーカーのほか、メルセデスベンツ、BMW、フォルクスワーゲン、アウディ、ポルシェ、ボルボといったヨーロッパのEV・PHEVにも試乗(場合によって同乗)できます。

②フォーラム

「観光と自然の共生を考える(仮)」。EV・PHEVを活用して自動車と自然が共生する方法について考えます。

③自動車ジャーナリスト座談会

「電気自動車ってホントに使えるの？」を自動車ジャーナリストが本音で語ります。また、試乗したみなさんへインタビューを行い、感想をうかがいます。

④その他

飛騨の名産品や、地元で人気のグルメを楽しめる屋台が出店します。

詳細は、EVラリー特設ウェブサイト <http://www.jevc.gr.jp/rally2016/> をご覧ください。

以上

☆問い合わせ先

一般社団法人 日本EVクラブ事務局 石川響子

〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-20-10-401

TEL 03-5376-8446 FAX 03-5376-5310 <http://www.jevc.gr.jp> E-mail: admi@jevc.gr.jp